

国語科学習指導案

日 時 平成30年 6 月 1 日（金）第 1 校時
対 象 3 年 5 組 4 0 人
指導者 教 諭 眞 邊 剛

- 1 単元名 学びをつなげる授業「この題名で勝負！」
(資料：日高敏隆「世界を、こんなふうに見てごらん」 集英社文庫)

2 単元設定の理由

(1) 教育的意義

現代社会は、グローバル化が進み、価値観も多様化してきている。そのような社会を生きる私たちには、多様な価値観をもつ人々とコミュニケーションを重ねる中で、個々の価値観を確立し、その価値観に基づいた思いや考えを他者に伝えて、より良い社会を築くための一員となることが求められている。しかしながら、多様な価値観の中に生きるがゆえに、自分の価値観が曖昧なものになりがちであり、自分の価値観や思い、考えがどのようなものであるか、なぜそのような価値観や思い、考えをもつに至ったのかを自覚できず、他者とのコミュニケーションが表面的で非生産的なものになることも多い。このような状況は中学生も例外ではなく、自分がそれまでに経験してきたことや得てきたものが、自分にとってどのような価値をもつものなのかを自覚できず、他者に対して根拠立てて自信をもって伝えたり、新たなものを生み出すことにつなげたりすることができず、結果的に、現在の生活や学習に対して、意欲的になれない生徒も少なくない。

そこで、国語科の学習においても、これまでの様々な学習や生活体験の中で得てきた力、知識や経験等を関連づけながら課題解決に向かわせることで、日々の学習や生活の中での積み重ねが、目の前の問題を解決する上で必要不可欠なものであることを実感させるとともに、そのような課題解決に向かわせる中で、生活場面にも生きる力や知識等をさらに身に付けさせたいと考え、本単元を設定することにした。

本単元「この題名で勝負！」は、文章にふさわしい題名を考える活動を行う。文章の題名は、書き手の伝えたいことを凝縮して表したもので、文章のテーマを端的に表したもので、読み手の興味を引き出すようにインパクトを与えようとするものなど、いくつかのパターンに分けられる。そのため、文章内容を理解する「読む能力」を核としながら、これまでの様々な学習で得てきた力や知識を関連づけて、多様な視点をもって、文章によりふさわしい題名について考えていく学習活動にできると考え、本単元を設定した。

具体的には、日高敏隆の『世界を、こんなふうに見てごらん』の章「^{そら}宙に浮くすすめ」を資料とし、この一つの章を A ～ C の 3 つの部分に分けて、グループの 6 人で分担して読み解かせる。最初は個で自分の担当部分を構造的に捉えさせ、筆者の伝えたいことを短文でまとめさせる。その上で、同じ部分を担当する 2 人でペアを組ませ、その部分の読み取りを深めさせる。次に、各ペアが読み取ったことをグループ内で共有した上で、グループで章全体を一つの文章として構造的に整理させ、章全体にどのような題名をつけるとよいかを考えさせる。さらに、各グループが考えた題名案を基に全体で意見交換を行わせて、題名が果たす役割について理解を深めた上で、グループで章全体の題名案を再度検討させる。このような展開の中で、「比較」や「対話」を生み出し、協働して課題解決を図ることをねらいとしている。また、単元の終末には、再度、個で題名案を考え論述させる活動を設定し、「比較」や「対話」、協働的な活動を通しての個の高まりを捉える。

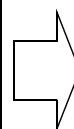
このように、文章にふさわしい題名を考えるという学習活動を通して、文章を的確に読み深め、語句や表現にこだわって題名を考える中で、これまでの様々な学習や生活体験の中で得てきた力、知識や経験等を関連付けながら課題を解決する力を身に付けることができるようになるとともに、今後の様々な学習や生活が将来に渡って役立つものであるという意識をもたせることで、生活や学習により意欲的に向き合うことができるようになることを考え、本単元を設定することとした。

(2) 連関的意義

本単元は、これまで学習してきた内容と以下のような関連をもつ。

第 1 ～ 3 学年

【話すこと・聞くこと】	○話題設定や取材	○話し合うこと	など
【書くこと】	○課題設定や取材	○記述	○交流
【読むこと】	○語句の意味の理解	○文章の解釈	など
【言語事項】	○言葉の特徴やきまりに関する事項		など



【学びをつなげる授業】
この題名で勝負！

3 単元の目標及び評価規準

【単元の目標】

- (1) 文章に表れているものの見方や考え方を踏まえて文章にふさわしい題名を考える活動を通して、目的を明確にして文章を読もうとしたり、題名の果たす役割について理解しようとしたりすることができる。
(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 題名をつけるという目的を明確にして文章を読むことを通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方に着目しながら、文章に表れているものの見方や考え方を的確に捉えることができる。
(読む能力)
- (3) 題名を決定するためにペアやグループ、全体で「対話」を行う活動を通して、自分の立場や考えを明確にして話したり、他者の考えを的確に聞き取ったりしながら、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。
(話す・聞く能力)
- (4) 文章の内容を理解したり、題名に用いる語句を考えたりすることを通して、文脈の中で語句や表現がもつ意味や、語句や表現のもたらす印象等の差異について理解し、目的に応じて的確に用いることができる。
(言語についての知識・理解・技能)
- (5) これまでの国語科での学習や様々な生活の中で得た、力、知識や経験等を関連付けながら、課題を解決することができる。
(「能動性」・「独自性」)

(1)～(4)については以下を重点的に指導する。

評価の観点	評価規準	学習指導要領内容との関連
国語への関心・意欲・態度	① 文章に表れているものの見方や考え方を踏まえて、その文章にふさわしい題名を考えようとしている。 ② 自分の役割と責任を理解した上で、ペアやグループ、全体での「対話」に、進んで参加しようとしている。	
読む能力	③ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方に着目して、文章に表れているものの見方や考え方を的確に読み取っている。 ④ 「対話」で自分の考えを広げたり深めたりしながら、題名の果たす役割を理解した上で、文章にふさわしい題名を考えている。	ア 語句の意味の理解 イ 文章の解釈
話す・聞く能力	⑤ ペアやグループ、全体での「対話」の中で、自分の立場や考えを明確にして伝えたり、他者の考えを的確に理解しながら聞いたりして、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。	ア 話題設定や取材 ウ 聞くこと エ 話し合うこと
言語についての知識・理解・技能	⑥ 語句や表現にこだわりながら筆者の伝えたいことを読み取ったり、語句や表現のもたらす印象等に留意しながら題名を考えたりする活動を通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	イ 言葉の特徴やきまりに関する事項(イ)

(5)については、次の評価規準(ICEモデル)に即して、指導と評価を行う。

I	C	E
○ 文章に表れているものの見方や考え方を的確に読み取り、文章にふさわしい題名とそう考えた理由を説明できている。	○ 「対話」の内容を踏まえて、文章に表れているものの見方や考え方をよりの確に読み取ったり、題名の果たす役割について理解を深めたりした上で、文章にふさわしい題名とそう考えた理由を論理立てて説明できている。	○ 「対話」の内容を踏まえて、文章に表れているものの見方や考え方をよりの確に読み取ったり、題名の果たす役割について理解を深めたりした上で、文章にふさわしい題名とそう考えた理由を論理立てて説明できている。また、多様な観点をもって文章を読むことの重要性に気づき、今回の学習をその後を生かそうとしている。

4 単元の指導計画

(1) 単元設定の視点

ア 生徒の実態から

本学級の生徒には、次のような実態が見られる。

- ・ 説明的文章の筆者の主張をある程度理解することはできるが、論理の展開を細かなところまで丁寧に捉えることができず、表面的な理解にとどまってしまう生徒もいる。
- ・ 「対話」の中で、互いの意見を伝え合うことはできるが、合意形成を促しても、一人の意見に偏ってしまい、互いの考えを基に、よりよい考えを生み出すことができないことも多い。

このような実態から、指導に当たっては、一つの文章を分担して読み取りをさせることで、論理展開に着目させながら、文章全体での筆者の考えや主張を丁寧に捉えさせたい。また、個、ペア、グループ、全体で考える時間を明確に分けながら、個々の役割と責任を明確にし、個々の考えが合意形成において役立つ場を確保できるように「対話」を促していきたい。

イ 本校国語科の研究内容との関連から

① 国語科における『創造的な学び』を支える3つの活動について

本単元では、まず、「文章にふさわしい題名を付けよう」という学習目標を示し、「文章を分析し、筆者が伝えたいことはどのようなことか捉えよう」という学習課題を示した上で、自分の担当部分において筆者の伝えたいことを個で読み深めさせていく。そして、その読み取りの内容をペアで確認させ、考えを伝え合うことで、それぞれの読み取りをより確かなものにさせていく。その上で、グループ内でその読み取りの内容を示しながら「対話」を行わせ、グループとしての題名案について合意形成を図らせる。このように、ゴールを明確にした上で「対話」を行わせていくことで、文章自体への理解を深めさせていきたい。

さらに、次の段階では「どの題名が最もふさわしいだろうか」という学習課題を示した上で、全体で各グループの示した題名案を「比較」させながら「対話」を行わせ、文章内容についての理解を深めさせる。その上で、題名の果たす役割を多面的に考えさせ、「筆者の伝えたいことや文章内容につながるか」「読み手に興味をもたせられるか」「読み終わった後に納得ができるか」等の視点をもたせ、もう一度グループで「比較」「対話」を行わせながら、題名を練り上げさせていく。

最終段階では、それまでの学習をふまえて、個で題名を決定させる。これまでのグループや全体での「比較」「対話」で深まった考えを基に、自分が題名を決定できる立場であれば、どのような題名とするかを論述させる。

このような、「ひらめく」「ひろげる・ふかめる」「まとめる」活動を行わせることで、生徒の創造的に思考する力や創造的に思考しようとする態度を伸長させていきたい。

② 国語科における「能動性」「独自性」を育む指導と評価について

本単元は、「文章にふさわしい題名をつける」という単元のゴールを設定することで、ゴールに向けて、「読むこと」に関するこれまでの学習事項を核としながら、既習事項を関連付けながら、能動性や独自性を発揮して思考を深めていくことができる単元とした。「ひらめく活動」、「ひろげる・ふかめる活動」の過程での「比較」「対話」や、「まとめる活動」での論述において、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」での既習事項も生かすことができるため、能動性や独自性を一層高めることができる考える。

単元の最終段階では、それまでの、グループや全体での「比較」「対話」を通して考えたことを踏まえた上で、個人としてどのような題名がふさわしいと考えたかを論述させる。この論述から、「ICE モデルを基にしたルーブリック」を基に、それまでの学びを関連づけて、能動性や独自性を発揮しながら課題解決を図ることができているかを捉えていく。なお、そこまでの過程においては「振り返りカード」にその授業を通して最も大切だと感じたことを毎時間記録させていく。「振り返りカード」の生徒の記述を確認することで、毎時間の授業の目的が達成されているかを確認しながら、生徒が能動性や独自性を発揮しながら課題解決に向かおうとしているかを見取り、授業展開の修正を行っていききたい。

③ 国語科における「協働」の視点を取り入れた指導の工夫について

本単元では、まず、文章の「章」を3つの部分に分け、6人グループのうちの2人で一部分ずつを担当して読み取りを深める学習場面を設定する。個々で読み取ったことをまずは同じ部分を担当する2人で確認することで、その部分の読み取りを深め、その後のグループ学習において自信をもって発言ができる考えた。その次に、各ペアで担当部分の「キーワード」と「筆者の伝えたいこと」を説明した上でグループ活動を進めていく。このような流れとすることで、一人一人の役割と責任が明確になり、協働的な学習を進めることができる考えた。

また、グループリーダーには、「対話」の目的と、課題解決に向けた話合いの進め方を事前に伝え、グループ全員の考えを引き出しながら、合意形成に向けて意見を収束に向かわせていくように意識付けをすることとした。

(2) 単元の指導計画（全7時間）

過程	主な学習活動	時間	指導にあたっての手立て	評価
導入	1 これまでの国語の学習や様々な経験を振り返り、文章に「題名」を付ける上で大切なことはどのようなことかを考える。 2 学習目標及び学習の流れについて確認する。 3 自分の担当する文章を読み、「キーワード」と「筆者の伝えたいこと」を書く。	1	- 具体例を示しながら、文章の「題名」とはどのようなものであるかを考えさせる。 - 説明的文章の書籍から、一部分を引用し、A～Cの3つに分割して、資料として配付する。 6人グループで、A～Cの文章を各2人ずつが担当することとする。 - 個々には、担当することになった文章だけを読ませ、その文章の「キーワード」と「筆者の伝えたいこと」をワークシートにまとめさせる。	①③ [ワークシート, 振り返りカード]
展開	4 同じ文章を担当した者同士でペアを組み、読み取った内容について「対話」を行う。 5 必要に応じて読み取りの修正等をした上で、その部分のキーワードをカードに書き出す。	1	- 前時のワークシートを基に、同じ文章を担当するペアで意見交換させ「キーワード」を考えさせる中で、読み取りの不十分な部分に目を向けさせて、必要に応じて修正を行わせる。 - ペアでの意見交換を基に、キーワードカードを作成させる。	①③ [ワークシート, 振り返りカード]
	6 グループ内で、それぞれの部分の担当ペアが、自分の読み取った文章内容と「キーワード」「筆者の伝えたいこと」を説明し、その内容について、グループで「対話」を行う。 7 各部分の説明や前時の「対話」を踏まえて、文章全体の題名案を個々で考える。	2	以下の手順で進めさせる。 ① ペアで協力して、読み取った「キーワード」「筆者の伝えたいこと」について、グループのメンバーに伝える。 ② 全員がその部分の文章を読み、担当ペアの説明と照らし合わせる。 ③ 担当ペアに対して、肯定的意見、批判的意見、質問等を述べさせる。 ・ A～Cが一連の文章であることを確認させ、題名案を個で考えさせる。	②③⑤ [机間指導, ワークシート, 振り返りカード]
	8 グループで「対話」を行い、題名案を練り上げる。 9 題名案を全体で説明するための発表ボードを作成する。	1 (4時)	- 個で考えた題名案を紹介させた上で、文章全体の題名案をグループで1つに決めさせる。 - 次時の発表に向けて、発表ボードを作成させる。 - 他のグループを納得させるために、根拠立てて題名案を説明できるように準備させる。 - 状況に応じて、「筆者の伝えたいことや文章内容につながるか」「読み手に興味をもたせられるか」「読み終わった後に読み手が納得できるか」という観点を示しながら、各グループでの「対話」を深めさせる。	②③⑤ [机間指導, ワークシート, 振り返りカード]
開	10 各グループで検討した、題名案を全体で共有し、全体での「対話」を行う。 11 出された考えや意見を踏まえて、グループで「対話」を行い、題名案を再検討する。 12 各グループから最終題名案を示し、最もふさわしい題名はどれかを検討する。	1	- 各グループからの題名案について、相互に意見を述べさせたり質問をさせたりすることで、文章内容の理解を深めさせる。 - 全体での意見交換で出された意見等を基に、各グループで題名案の最終検討を行わせる。 - 各グループからの最終題名案を示した上で、今日までの学習を基に、最もふさわしいと考えるものはどれかを意思表示させる。	② ③ ④ ⑤ ⑥ [机間指導, ワークシート, 振り返りカード]
終末	13 これまでの学習を踏まえた上で、自分が書籍出版の責任者であれば、どのような題名で最終決定するかを論述する。 14 学習のまとめを行う。	1	前時までの学習を基にして、個人で題名とその根拠について論述させる。	①④ ICE [ワークシート, 振り返りカード]

5 本時の実際（5／7）

（1）指導目標

個で考えた題名案を基にグループによる「対話」で意見交換をし、根拠の整理をしながらグループとしての題名案を決定する活動を通して、題名を付ける上で重要な観点を考えることができ、根拠を明確にして文章にふさわしい題名案を考えることができるようにする。具体的には、次のような姿を目指す。

十分達成されている	グループでの意見交換を通して、題名を付ける上で重要な観点到に気づき、根拠を明確にした上で、文章にふさわしい題名案を考えることができる。
おおむね達成されている	グループでの意見交換を通して、根拠を明確にした上で、文章にふさわしい題名案を考えることができる。
達成していない生徒への手立て	他者の示した題名案と、自分の考えた題名案との相違点を考えさせ、その違いが生まれた理由について考えさせる。

（2）目標行動（G）

本時の授業を振り返って「振り返りカード」に以下のようにまとめることができる。

- ・ 題名を考えると、筆者の伝えたいことをそのまま表すだけでなく、読みたいと思ってもらえるかどうかも含めて考えることが大切だ。
- ・ 興味を引きつけるような題名にしたときには、読み終わった人にその題名であることに納得してもらえないと、文章自体が評価されないかもしれないので注意したい。
- ・ なぜその題名としたかを相手に納得してもらうためには、その理由をできるだけ具体的に説明できるように根拠を明確にしておかなければいけない。

（3）下位目標行動

- ① 次時の、グループとしての題名案の発表に向けて、自分たちのグループがその題名案とした理由や根拠を整理しながら発表ボードを作成することができる。
- ② グループ内での意見交換をふまえて、グループとしての題名案を決定することができる。
- ③ 他者の示した題名案に対して、例えば以下のような意見や質問を述べるができる

〔肯定的意見〕

- ・ 筆者の言いたいことは科学とはどのようなものであるかなので、○さんの示している「科学とはなにか」という題名で良いと思う。
- ・ ○さんの「科学と知性」は、C の部分で述べられている内容をふまえているので良いと思う。

〔批判的意見〕

- ・ ○さんの「知性が大切」は、筆者の言いたいことではあるけれど、そもそもこの本の筆者は、A から分かるように、「科学」について話しているので「科学」という言葉がないと、本のテーマが分からなくなるのではないかな。
- ・ 「科学がそんなに偉いのか？」という○さんの案はおもしろいけれど、科学自体を否定しているわけではないので、本を読んだ人が納得するか疑問が残る。

〔代案〕

- ・ ○さんの「知性で科学を捉えよう」は、筆者の言いたいことを表しているが、興味は引きづらないので、「知性で捉えると科学はおもしろい」という題名にしてはどうか。

- ④ グループ内で、自分の考えた題名案を示し、その題名案とした理由を説明することができる。
- ⑤R 本時の学習の流れを確認し、学習の見通しをもつことができる。
- ⑥R 学習課題「A～Cの分析を基に、文章全体に題名を付けよう」であることを確認することができる。
- ⑦R 本時の学習目標が、「文章にふさわしい題名を付けよう」であることを確認することができる。
- ⑧R 前時までの学習を振り返ることができる。

(4) 本時の実際

時間	学 習 過 程	指 導 上 の 留 意 点	評価活動
3'	スタート 本時の学習目標と学習課題、学習の流れを確認する。 1	<導 入> 本時は、前時に個で考えた題名案を紹介し合った上で、最もふさわしい題名はどれかについてグループで「対話」を行い、題名案の練り上げと次時の発表の準備をしていく学習であることを確認させる。 <学習目標> 文章にふさわしい題名を付けよう。 <学習課題> A～Cの分析を基に、文章全体に題名を付けよう。	
10'	(⑧R, ⑦R ⑥R, ⑤R) グループ内で、自分の考えた題名案と、その理由について説明する。 2	<展 開> A～Cの各部分について読み取ったことを踏まえながら、文章全体の題名案について説明を行わせる。 (実践編 I pp82～83)	○ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方に着目して、文章に表れているものの見方や考え方を的確に読み取っているか。
20'	(④) 示された題名案に対して、意見や質問を述べ合い、グループの題名案を検討する。 3	肯定的意見、批判的意見、代案などを示させながら、グループとしての題名案を練り上げさせていく。 <達成していない生徒やグループへの手立て> 「筆者の伝えたいことにつながる」「読み手の興味をもたせる」「読み終えたときに、題名と内容の関係に納得できる」等の観点を与えながら「対話」を深めさせる。 <達成している生徒やグループへの手立て>	(発表・ワークシート・観察)
10'	(③, ②) 決定したグループの題名案について説明をするための発表ボードを作成する。 4	他の題名案を支持する人たちに対してどのような説明を行えば、自分たちの題名案に納得してもらえるかを考えさせる。 (実践編 I pp34～35)	○ グループでの「対話」の中で、自分の立場や考えを明確にして伝えたり、他者の考えを的確に理解しながら聞いたたりして、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしているか。
7'	(①) 学習のまとめをし、次時の学習について確認する。 5 ゴール	<終 末> - 本時の学習を振り返って、自分が大切だと感じたことを「振り返りカード」に記述させる。 - 次時は、本時の学習を基に、各グループの題名案について説明をし、最もふさわしい題名案を考える授業であることを確認し、授業を終える。 (実践編 I pp56～57)	○ 能動性・自主性が高まっているか。 (「振り返りカード」)